

# 神戸新聞

2016年(平成28年)5月13日 金曜日

ミツバチが舞う中、最盛期を迎えた採蜜作業  
＝12日午前、兵庫県多可町中区門前

NEXTに  
動画



## こっちのミツは甘いぞ

五月晴れの下、兵庫県多可町では養蜂家がレンゲ蜜の採集を本格化させている。緑濃い里山周辺には早朝から甘い香りが漂い、ミツバチの羽音がせわしない。

初夏の一時期しか採れないレンゲ蜜は、さっぱりとした味わいの高級品だ。しかし、15年ほど前から牧草の害虫が大量発生し、県内のレンゲ畑の多くが被害を受け、蜜の採集量も激減した。

農業が使えず、養蜂家らでつくる県養蜂振興会は九州の植物防疫所の指導で天敵蜂などを導入。地道な対

レンゲの採蜜ピーク多可町

策を続けた結果、畑が再生しつつあるという。

作業はハチを防ぐ面布をかぶり、巣箱から巢板を取り出すことから始まる。群がったミツバチをやさしく払いのけると、透き通ったレンゲ蜜が陽光に輝いた。専用の分離器に巢板を入れ、蜜を取り出す作業を繰り返した。

この道「半世紀」の高橋 国<sup>こ</sup>人さん(80)＝西脇市＝は「巣箱近くのレンゲがきれい、ミツバチの動きも活発。『今年こそ』という思いは強いです」と話す。

(中西大二)